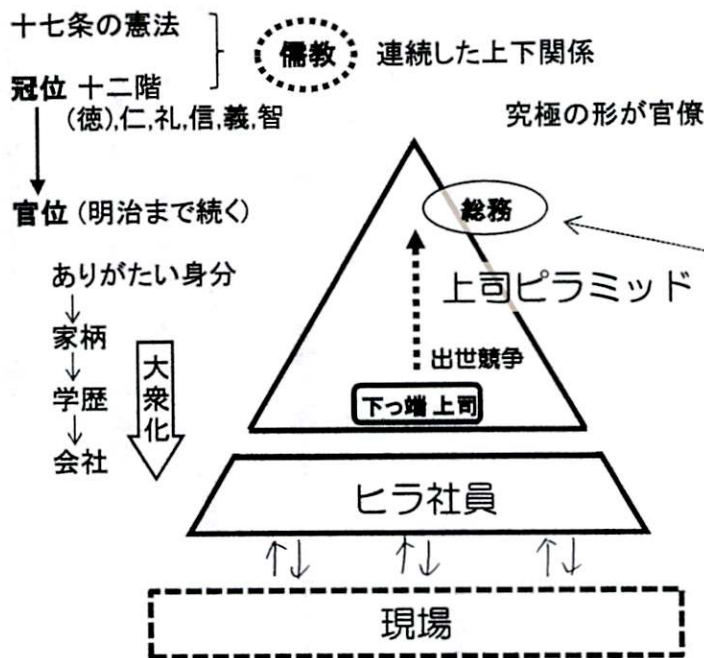
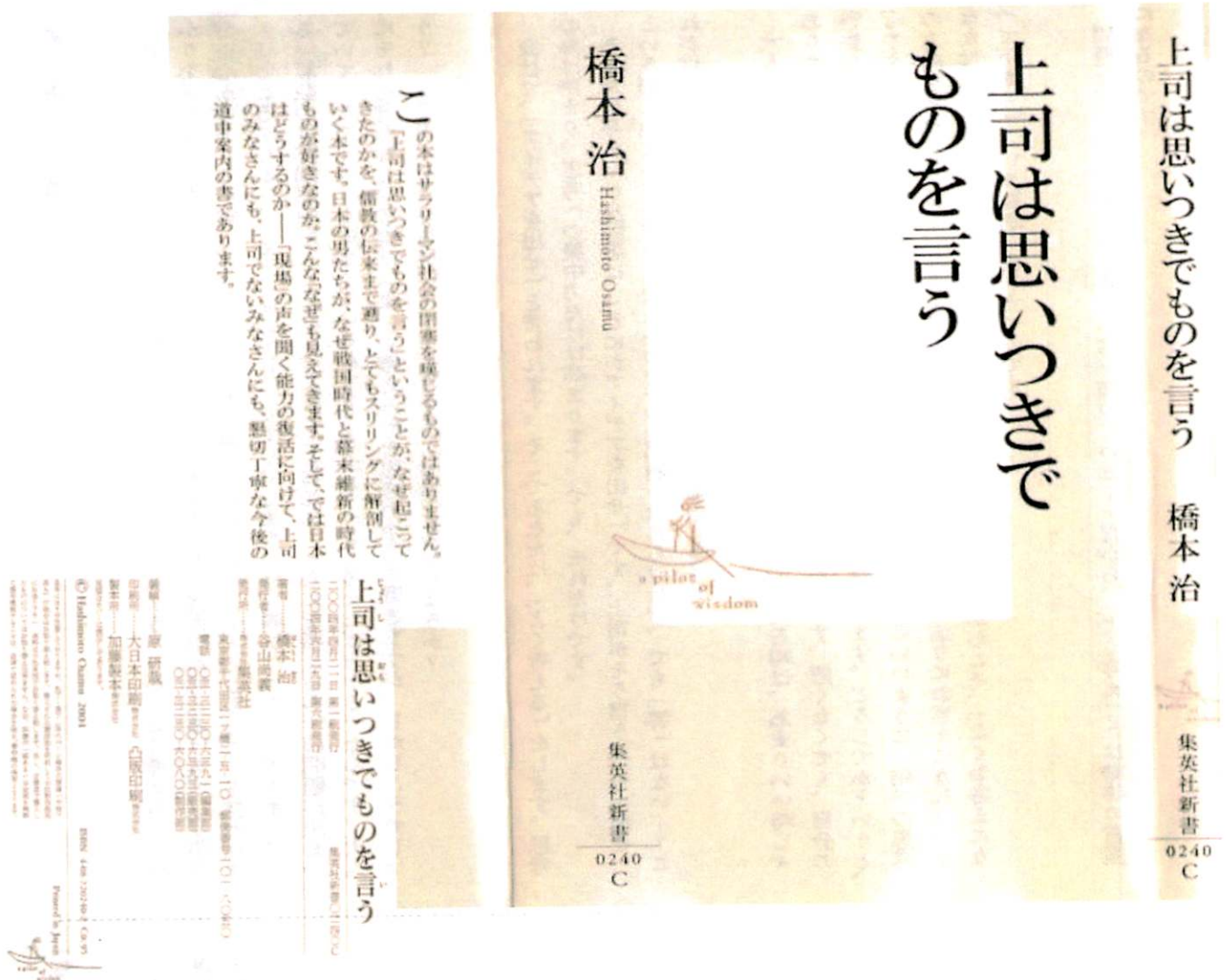
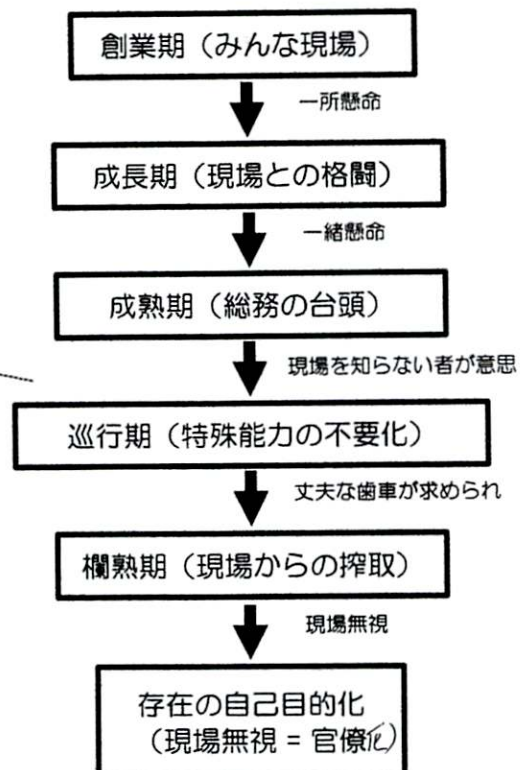




【サラリーマン社会の構図】



【会社の成長過程】

「よく考えて」の異

日本人は、子供の頃から「よく考えて」とか「よく考えてみよう」とか「よく考えろー」ばかりを言われています。「よく考える」とは、「思考を集中して真面目に考える」です。子供は好奇心があちこちに走って、なかなか思考に集中出来ないの、大人にこんなことを言われます。ところがしかし、「よく考えよう」ですんでしまうのは、答がはっきりして決まっている「算数の計算問題を解く」とか、そんなことだけです。「なにを考えるか」の問題が決まっています、その「答」も決まっています。だから、「よく考えれば分かる」なんです。大人にそれを言われて、子供は「よく考える」を思考の中心に置きますが、しかしどうでしょう？ 世の中で、そんな単純な「よく考える」が通用するでしょうか？

会社で、「アイデアを出せ」と言われます。そこであなたは、「よく考える」をします。思考の幅は狭まり、思考への集中力だけは高まります。でも、それだけです。

あなたに与えられた問題は、「なにかアイデアを出せ」です。上司がそう言う以上、「出せ」という側は「よいアイデア」はないのです。「問題」はあるけれど、でも「答」はない——これが世の中です。学校での「よく考えよう」は、通用しません。

大人になったあなたが「よく考えて下さい」という決断を迫られる時は、あまりいい時ではありません。悪いセールスマンは、「よく考え下さい」と言います。悪くなくても、自分の利益を考える人は、「よく考えて下さい」と言って、相手を説得します。どうしてかという、「よく考えて下さい」と言って相手に決断を迫る側は、自分の都合のいいように、相手の思考の方向をあらかじめ設定してしまっているからです。「我々の誘導通りにお考えになれば、あなたは損をしないのです」というガイドラインが設定されているからこそ、「よくお考えになって下さい」という勧誘が成り立つのです。

問題を出す側が、あらかじめその答を知っている——だから、「よく考えて」は勧誘の言葉になるのです。

「ちょっと考えさせて下さい」と言って、すくくいばい考える

私にとって「よく考える」は、「お前はバカか？」の同義語です。簡単に分かることなのに、思考が散乱しているから、目の前にある分かった答が見えない——だから、「よく考えてみな」と言う、言われる。それはつまり、「お前はバカか？」と同じなのです。

これとは逆なのが、「ちょっと考える」です。深刻とか重大とか、それこそよく考えなくちゃいけない問題にぶつかった時、私は、「ちょっと考えさせて」と言います。もしかしたら、あなたもそうじゃありませんか？

「よく考える」と「ちょっと考える」は、その言葉の表面とは正反対の内実を持っているのです。

「答」は相手が握っている

「よく考える」は、思考を集中させて考えます。これに対して「ちょっと考える」は、思考を拡散させて考えます。だから、「ああ、こうだ」と、いろいろな考えが浮かんで来ます。「集中せよ」のプレッシャーがない分だけ、思考が自由なんです。自由だから、「ちょっと」の軽さになるんです。

人間的な声を出すことを考えたらどうでしょう

第一章の初めでも言いましたが、日本人は「よく考えて」をします。「よく考える」は、「相手の立場を考慮する」でもあって、「相手への忠誠」でもあります。これに対して「ちょっと考える」は、「自分の立場を考慮する」です。自分は「ちょっと」で、相手は「よく」なんです。